

# PT調査に基づく多核連携型コンパクトシティの評価に関する研究

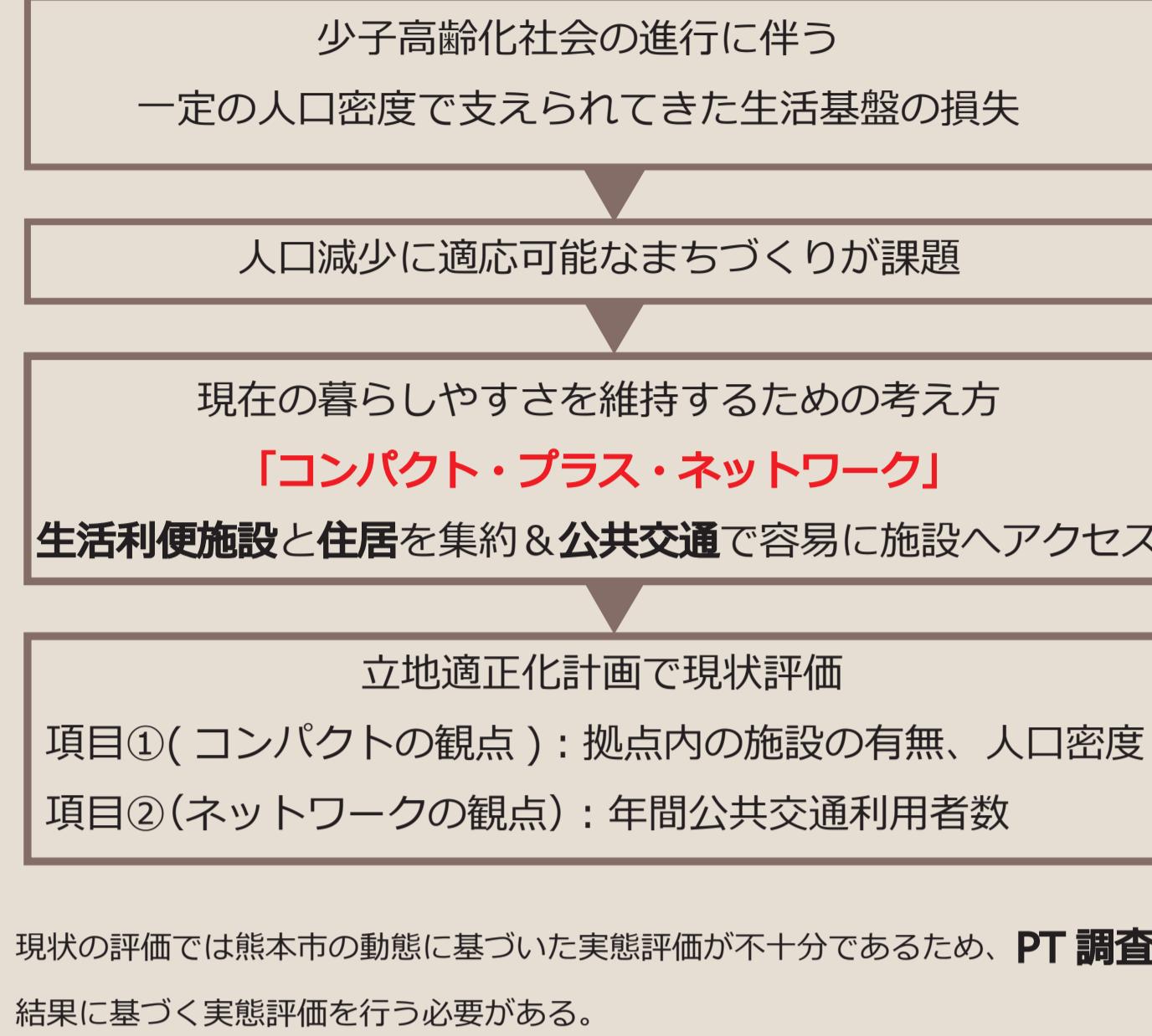
## —熊本市を事例として—

熊本大学大学院 自然科学教育部 博士前期課程

本間研究室 副島夏葵

### 1. 研究の背景・目的

#### a. 背景



#### b. 目的・研究の流れ

##### コンパクトの観点からの現状評価

- 施設密度と人口密度の関係の分析
- ヒートマップによる施設密度の視覚的な分析

##### ネットワークの観点からの現状評価

- 拠点間のつながりの分析
- 交通施設密度の分析

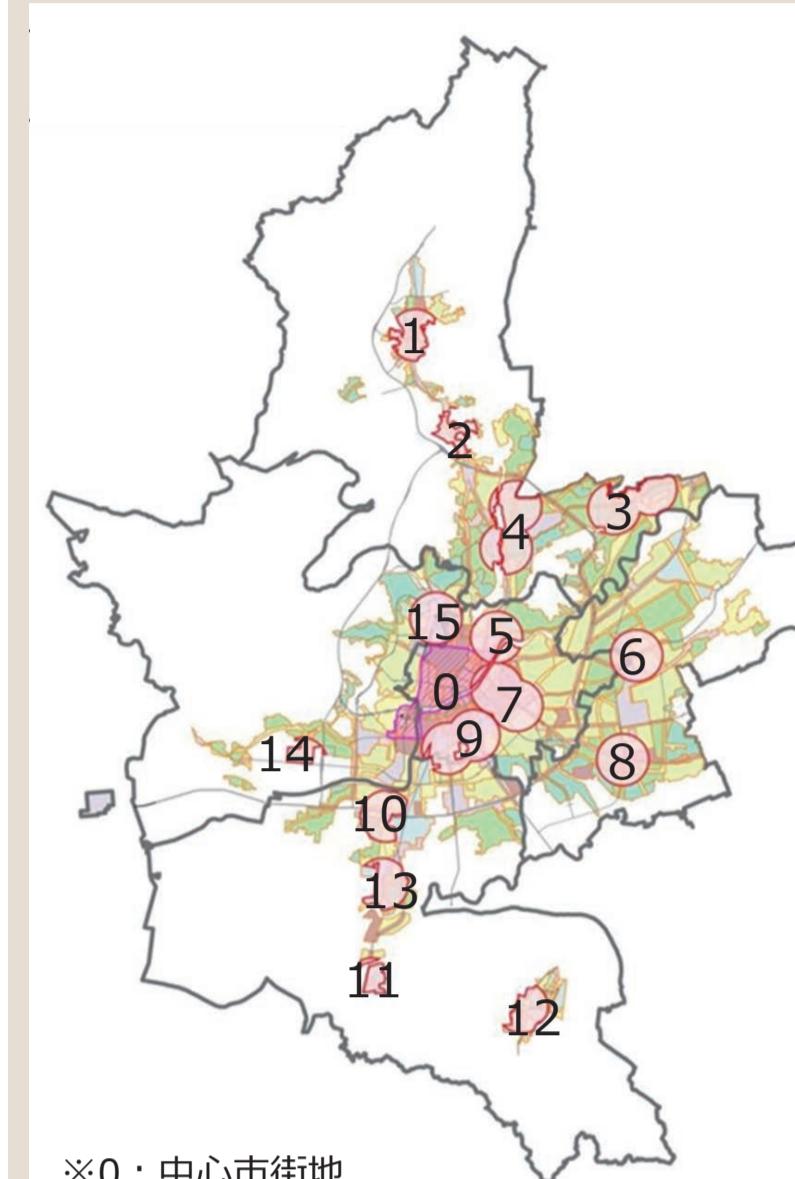
##### 将来推計人口を用いた評価

- 施設密度と人口密度の関係の分析
- 各区画内の高齢者の人口密度の割合

#### コンパクト・プラス・ネットワーク の実現のための施策の提案

### 2. 研究対象地

#### a. 研究対象地：熊本市



分析対象：都市機能誘導区域の15地域拠点

1	植木地区
2	北部地区
3	楠・武蔵ヶ丘地区
4	八景水谷・清水亀井地区
5	子飼地区
6	長嶺地区
7	水前寺・九品寺地区
8	健軍地区
9	平成・南熊本地区
10	刈草地区
11	富合地区
12	城南地区
13	川尻地区
14	城山地区
15	上熊本地区

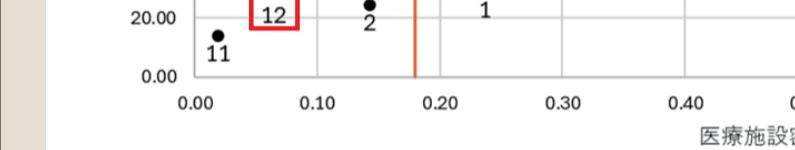
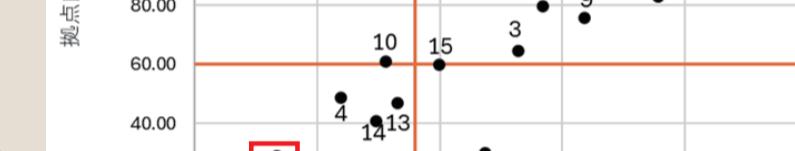
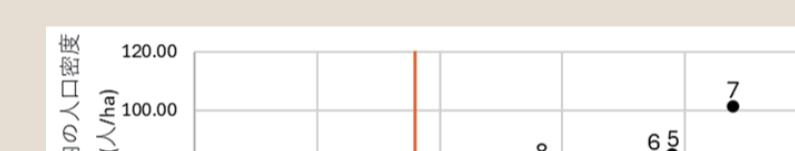
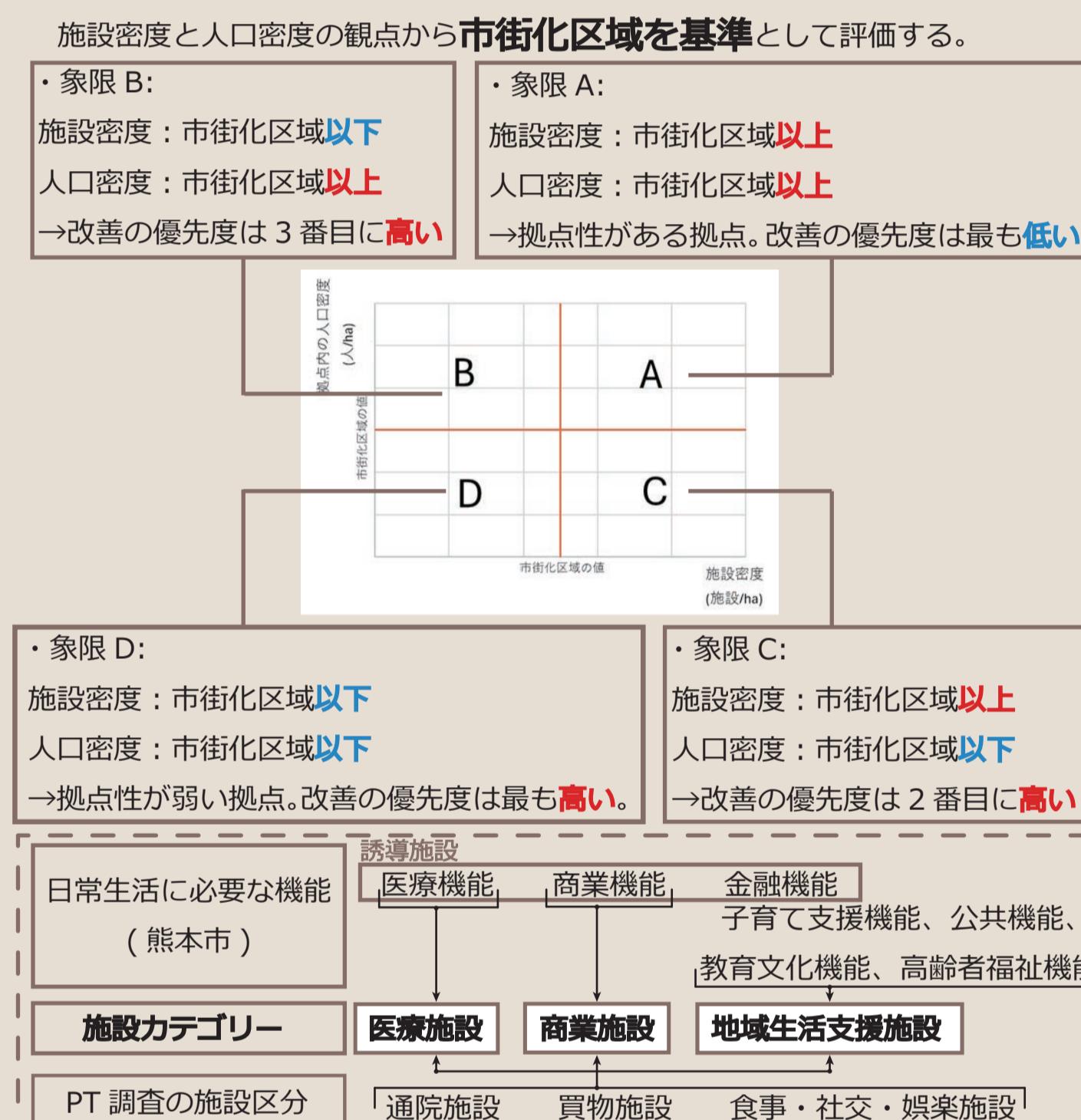
( 中心市街地は都市機能誘導区域であるが、地域拠点と求められる機能が異なるため分析対象に含めない )

### 3. コンパクトの評価

#### ①施設密度と人口密度の関係の分析

都市機能誘導区域である**地域拠点**は、市街化区域内で特に**都市機能が密集した地域**である。そこで、地域拠点が拠点として機能しているか、

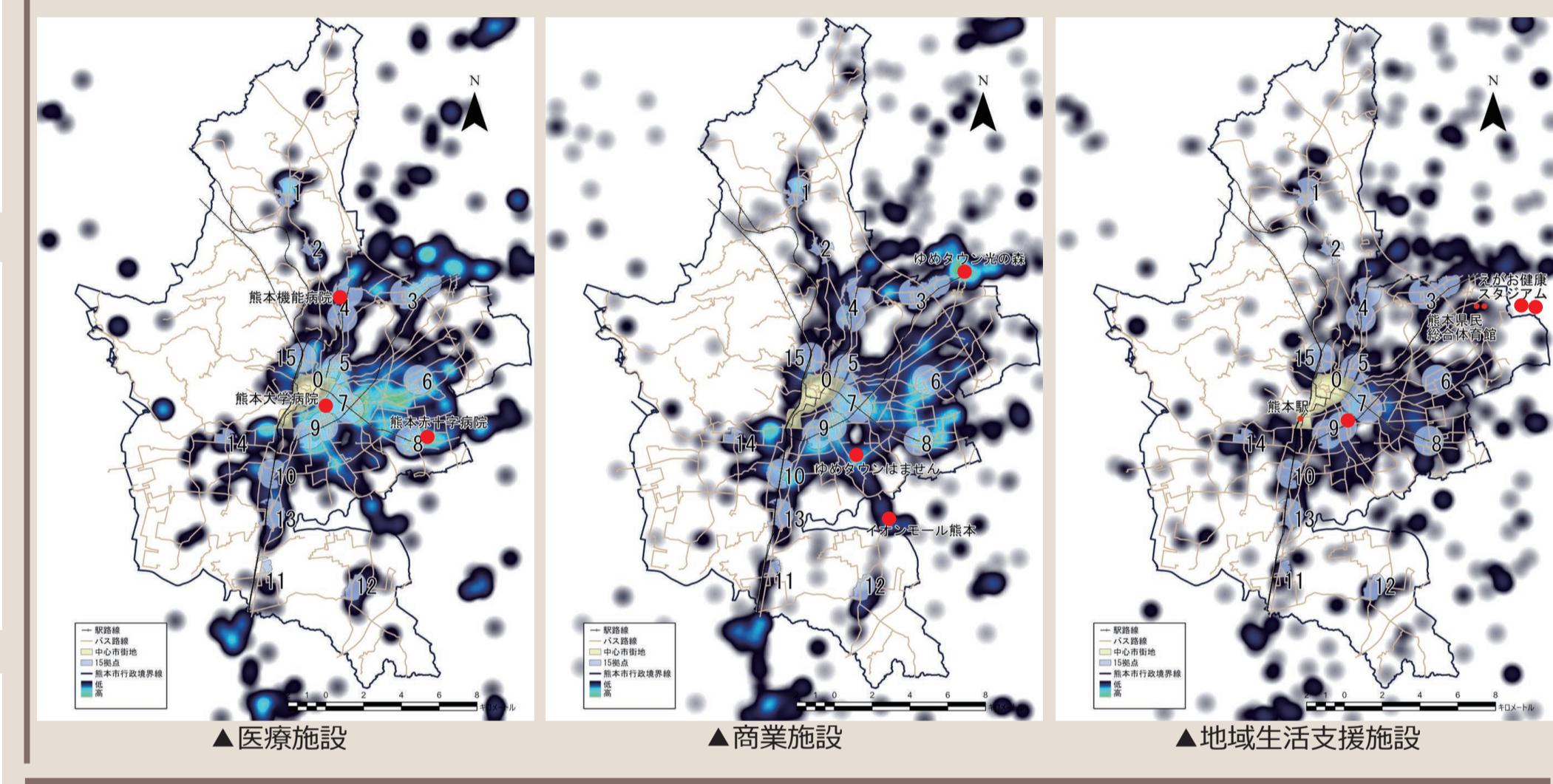
施設密度と人口密度の観点から**市街化区域を基準**として評価する。



#### ②ヒートマップによる施設密度の視覚的な分析

PT調査で回答のあった**利用頻度の高い施設**について、カテゴリー別にヒートマップを作成。

またそれぞれのヒートマップに、各カテゴリーにおける**回答者数上位3施設**の位置を示す。

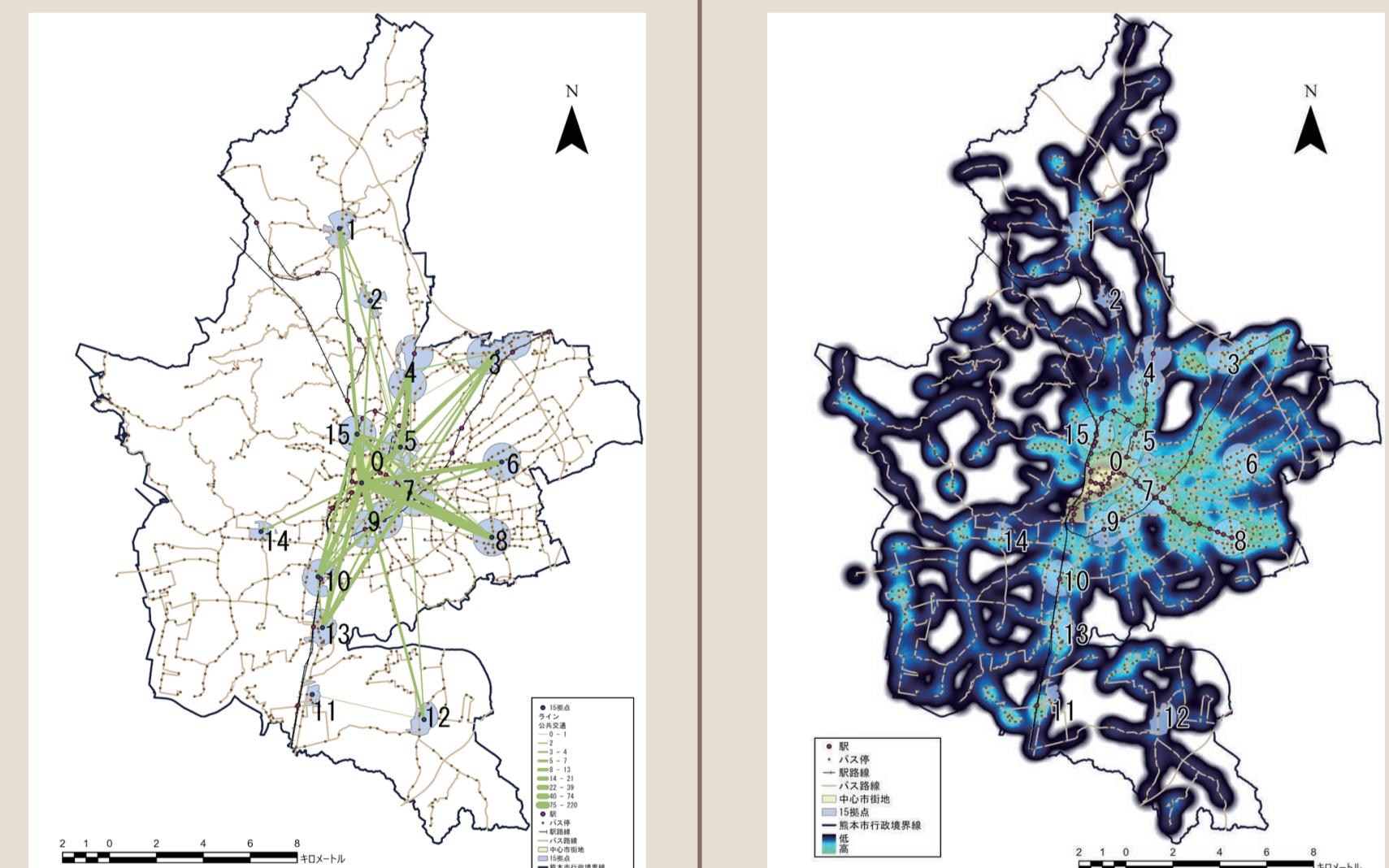


- ①▶ 医療施設と商業施設では、施設密度は人口密度に応じている。また全施設カテゴリーで、D象限の**拠点12(城南地区)**は、拠点周辺の市街化区域と差別化できておらず、**拠点としてあまり機能していない**といえる。
- ②▶ 利用頻度が高いと回答のあった施設の分布は必ずしも拠点の位置と一致しているわけではなかった。また**拠点12(城南地区)**の周辺に**拠点性の見込めるエリア**は見当たらなかった。

### 4. ネットワークの評価

#### ①拠点間のつながりの分析

拠点間を公共交通で移動する人数の合計値を  
図式化



- ①▶ 中心市街地と地域拠点間を結ぶ放射状のつながりはあるが、**中心市街地から離れるほど**そのつながりは弱くなっている。また**地域拠点と地域拠点を結ぶ**つながりは弱い。

- ②▶ 交通路線が中心市街地から放射状に延びているため、交通施設密度も**放射状**に高くなっている。

### 6. 総括

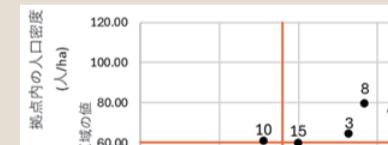
本研究では、都市機能誘導区域に定められている15の地域拠点を分析対象として、コンパクトの観点とネットワークの観点のから拠点の集約化及びネットワーク化について現状評価を行った。さらに、将来人口推計に基づいた評価を行い、これまでの評価と併せてコンパクト・プラス・ネットワークの実現のための施策を提案した。

### 5. 将来推計人口を用いた評価と提案

#### a. 将来推計人口を用いた評価

##### ①施設密度と人口密度の関係の分析

・医療施設



2020年 2050年

・商業施設



2020年 2050年

・地域生活支援施設



2020年 2050年

##### ②各区画内の高齢者の人口密度の割合

・バス停

・バス路線

・バス路線